（別紙4）　　平成　24　年度

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2170103705		
法人名	有限会社　ウィンドワード		
事業所名	グループホーム　ひなたぼっこ		
所在地	岐阜市梅林南町12番地　メゾンK　1階		
自己評価作成日	平成24年9月30日	評価結果市町村受理日	平成24年12月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JigyosyoCd=2170103705-00&PrefCd=21&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　ぎふ福祉サービス利用者センター　びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地　尾関ビル
訪問調査日	平成24年10月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

施設の場所が、梅林公園の前で、散歩をするにも利用者の方が疲れない距離で、四季の移り変わりも、感じる事ができ、周囲の環境も良い。又に何以上の職員も定着し、落ち着いている。職員の資格取得者は少ないが、どのような状況、状態の利用者の方が、入所されても対応できる力を、全職員が持っていると思っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

ホームの前には、地域の住民が散歩を楽しみ、語らいの場所・憩いの場所として利用されている有名な梅林公園がある。利用者の日常的な散歩コースでもあり、季節を肌で感じながら、多くの人とふれ合うことができる。設立当初から、身寄りの無い利用者が多く、ホームは安心して暮らすことのできる環境を整えており、「私の家」と利用者が友人に説明することもある。理念に「老いを笑うな、いずれ私も通る道」を掲げ、利用者と共に笑いの絶えない支援の取り組みを実践している。小旅行等共に出かける取り組みなどを行っており、利用者が自分らしく最期まで、安心して暮らせる支援体制を整えている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価票

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「老いを笑うないずれ私も通る道」の理念を玄関に掲げて、管理者、全職員は、この理念を共有し、利用者の方へのサービスを行っている。	玄関の目につきやすい場所に、理念を明記した額を掲げている。毎月の職員会議やミーティングで理念について話し合い、共有している。地域の人々と日々ふれあい、最期まで安心して暮らせるように実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所は地域との繋がりを持つために自治会に入会し、自治会の行事には、利用者の方、又それとは関係なく、可能な限り参加するように心がけている。	自治会員として、地域の行事や清掃活動に可能な限り参加している。自治会長が交代する度に挨拶を兼ね、ホームの理解と協力を依頼している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	一人暮らしの人、昼間一人で過ごされている人に施設へ遊びに来て頂けるよう町内、民生委員の方にも声掛けの協力を御願いし、事業所としての受け入れも万全だが皆さんにホームを理解してもらえるまで時間はかかりそうだ。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者方の個々の状況、サービスの実際を説明し、困っていること等の相談をして、意見アドバイスを受けながら取り組んでいる。	会議は2ヶ月に1回開催し、民生委員、行政、地域包括支援センターが参加している。身寄りの無い利用者も多く、地域の困難事例など、意見を交換している。自治会代表の参加を要請しているが、現段階では参加協力は得られない。	地域の理解者を委員にするなど、地域関係者が参加できるように期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の内容によっては、次の日に市の方が来所して下さって、詳細に話しを聞いて頂き、判断して下さった事もある。市の方達とは、蜜に相談や連絡をしている。	管理者は、毎週市役所を訪問し、困難事例を相談したり、法律改正などで指導を受けている。空室情報、身寄りのない利用者の後見などを連絡し、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者、全職員が理解している、現在やもうえなく拘束をしている人が見えるが、書類にしている。施設の玄関は、夜間施錠するが、昼間は施錠しず、センサーを設置し、人の出入りが分かるようにしている。	身体拘束のないケアを目指し、日々、職員全員で研修を重ねている。身体の安全のため必要な場合は、家族に説明し、了承の上、短期間で済むようケアの工夫をしている。「どこに行くの」など思いを止めることのない支援を実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	管理者、全職員が心がけている。特に言葉使いには注意するよう、心がけている。（利用者の方から誤解を受けないように）		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者と一部の職員は理解している、成年後見人制度を利用している人もいる。必要であれば相談にのる用意もある。事業所は職員に対しても学ぶ機会を持てるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項説明書にて説明を行ない質問を受け理解を得る。又改定等の際は、文書にて郵送、来所の際に再度説明し理解、納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の方のらい所の際に、要望、意見を聞くようにしている。口頭でいいづらい人の為には玄関に、苦情相談箱を設置し、他重要事項説明書の中に相談受付をしてもらえる外部の連絡先を記入している。	家族の来訪時に、ゆっくり時間をとって意見を聞いている。身寄りの無い利用者からは、話をよく聞き、不安のない安心した生活を送ってもらえるよう支援をしている。遠方の家族には、電話や手紙で詳細に報告し、意見を聞き、運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一度、代表者、管理者、, ケアマネージャー、全職員で会議を行い、意見、提案を出し合い、代表者はそれを、今後の運営に反映させている。又利用者の方、個々のサービスのあり方についても議論する。	職員が積極的に意見を発言できる職員会議を毎月開いている。ケアに対する気づきや改善提案など、具体的な意見交換をしている。代表者も共に意見を聞き、個別の悩みにも応じ、働きやすい職場づくりに反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表、管理者は、同一人物である為、全項目を把握出来ていると思っている。全職員が働き易い職場であるようにとは、常に考えるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修希望の職員に対しては、それに必要とする費用は事業所負担とし出来る限り研修等受け易いよう支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	特に交流の機会は設けていないが、個々に交流はあると思っている。時々、電話等で相談する事もある。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入の段階で、フェースシート、趣味、特技、嗜好シートを作成し、ある程度意思疎通が出来れば、要望等を聞きながら、本人との良い関係作り、今後のサービスのあり方を考える。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	可能な限り家族関係等を把握する。その中で、不安、要望、考えに耳をかたむけ、職員も一緒に考えていく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の方の話しを元に、代表者、ケアマネージャー、全職員と話し合いを重ね、あらゆる方向性を考えながら、より良いサービス、支援が出来るよう努める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	施設を一軒の家と考え、職員は出勤時は「ただいま」退社時は「いってきます」の言葉を使い、より家族らしさを表現している。今では利用者の方から「お帰りなさい。」の言葉が聞かれる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方の訪問時は、現状況の説明、ケア計画の説明、確認、遠方の家族の方には、電話、又は手紙を郵送して希望や意見を聞き共に支えていくようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで同様、馴染みの方の面会の受け入れは可能であるが、残念なことに現在の利用者の方に面会はない。	身寄りが無く、地域にも馴染みが少ない利用者が大半であり、「安心して暮らせる自分の家」がホームである。ホーム前の梅林公園に毎日散歩に出かけ、地域の高齢者、老人クラブなどの出会いから、新しい馴染みの関係作りに努めている。	利用者と共に街に出かけ、心地よい体験を通じ、馴染みの生活環境の広がりと継続に期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	今まだとは違い、話が出来るかたが多くなり会話も聞かれるようになった。関わり合い、支え合いも見られるが、その反面、悪口も時には耳にすることあり。職員が間に入ることもある。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	可能な限り、相談に応じれるよう努めている。相談に応じることが出来ない場合は、せめて話しを聞くだけでも良いのではないかと考えている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思疎通が可能な人であれば、日常生活の会話等の中で、思いや、考えを聞きながら、意思疎通が困難な人であれば、表情、仕草等を見ながら、希望、の意向把握に努めている。	ゆとりを持って利用者に寄り添い、会話の中で悩みや希望、不安などを聞き、意思疎通を図ることを大切にしている。入浴介助、テレビ、新聞など様々な場面で、思いや意向を把握し、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族の方、今までのケアマネージャーの方に、生活暦、趣味、特技、嗜好を聞く等して、利用者の方の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの毎日の状態を記録に残し、 日々の状態の移り変わりを見ながら、その日の状態に合った過ごし方をしてもらう。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度、代表者、ケアマネージャ、全職員が集まり、会議を開き、毎日の記録、運営推進会議、家族の方の意見を元に、ケアーや介護計画の見直しをするようにしている。	日々の記録、ケアにおける職員の気づき、家族の意見を代表者、ケアマネジャー、職員が集まり、全員で話し合い、医師の意見を組み込み、介護計画を作成している。変化があれば、その都度柔軟に見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録はファイルにとじて、日々の様子が分かり易くなっている。家族の方に限って見る事も可能とし、相談、意見も取り入れながら介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の中にも、日々状態が変わる方、急変する方、さまざまな方がいる。その為常に状態を把握し、状態に応じた対応が出来るよう心がけている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設の前が梅林公園で三月は梅祭りや屋台での買い物、四月は桜、夏は施設の駐車場で公園を眺めながらの「バーベキュー」「流しそうめん」等を楽しんでもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の方の希望があれば、可能（但し家族の方の付き添いにて）施設との契約医院があり昼夜を問わず安心して、医療が受けられるようになっている。	契約時にかかりつけ医の説明をしており、ほぼ全員が協力医をかかりつけ医としている。月2回の往診、看護師の訪問、歯科医師など整い、また、急変時には24時間対応が可能であり、家族はもとより、職員も安心してケアに取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に訪問看護師の方がきてくださって、介護職員の気づき、相談、意見を伝え、その事に関して、アドバイスを受け、利用者の方に不安を与えないよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院となった場合、入院先の病院には、これまでの利用者の方の状況、状態の説明を行ない、入院中には、面会し病院で経過の聞き取りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居じに家族の方の考えを聞き、重度化した場合には、主治医、家族の方、職員との間で話し合い、より良い支援が出来るよう努力している。	入居時に利用者と家族にホームの重度化、終末期の取り組みを説明している。早い段階で個々の環境に合わせた対応を家族、利用者と話し合い、より良い支援を行えるよう取り組んでいる。看取りの希望も多く、支援体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	月に一度の会議の時に、急変、事故発生時の手当、対応が出来るよう指導し、連絡体制を整えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の際に、避難経路の確認、誘導方法、消火器の取り扱い方の説明等を行なう。近所の人（一部）家主さんの参加で、外での訓練も行う。	地域の防災訓練に参加し、ホームの防災訓練の協力を依頼し、理解を得ている。消防署の指導の下、年2回の訓練を行い、器具の使用を体験し、誘導方法など、大家、近隣の協力を得て実践している。	地震、水害を想定した訓練を、定時的に行うことが望ましい。また、備蓄等の確保にも期待したい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の性格を把握し、その方に合った対応を考える。オムツ交換、排泄の声掛け等、他の利用者の方に気づかれない声掛けの方法。	関心のある話題を提供し、会話の中で趣味や性格等を把握している。管理者は、職員の言葉づかい、態度を日常的に目に留め、その都度、注意を促すことで、利用者の尊厳を守る基本を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	例えば、作業をして頂く時、新聞、買い物袋、洗濯物等をテーブルに置くと、得意な物に手を伸ばし、自発的に畳む作業が始まる、この事も自己決定のひとつだと考えられる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴、食事の時間は、ほぼ決まっているが、そのほかの事は、利用者の方の希望に添って日々の生活を過ごせれるよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は自分自身で選んでもらっている。歩行困難な方は、何着か用意し、その中から選んでもらうようにしている。自由に行動できる方の中には一日に何回も替わっていることもある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	今現在、食事作りをしている方はいない。身体的に無理な人、やりたくない人等。ただ食後の食器は拭いて下さったり、お茶等テーブルの上に置けば配って下さる事もある。	食事は利用者の楽しみであり、喜ばれるように食事内容を工夫している。後片付けやテーブルふきなど、できることを手伝ってもらっている。好きな食べ物や、味付けなどを話題にしながら、楽しい場面づくりを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の記録、利用者の方の体調に応じては、水分量のチェックも行なう。食事は利用者の方の状態に応じて刻み食、ミキサー食、水分はトロミ使用。毎日、10時15時頃に水分補給は行う。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎朝、夕、自分の歯、義歯、歯がない方、それぞれの方法にいぇ、一人ひとりの利用者の方に職員の介助や見守りの元で、口腔ケア又チェックを行なっている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターン、利用者の方の身体状況に応じて、ポータブルトイレ等使用して、排泄の声掛け、見守り等により、自立支援を行っている。	人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導や見守りで、自立に向けた支援をしている。職員間で、おむつを減らすための工夫をし、費用負担を軽減している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物、散歩は勿論、座位の状態で足の運動をしたり、ベット上で腹部マッサージ等、利用者の方の身体状況に応じた取り組みを行っている。改善困難な場合は主治医に相談する。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	身体状態、意思疎通困難な方は、入浴時間が、ほぼ決まってしまうが、可能な限り表情や、声掛け等で本人の意思を確認している。意思疎通が出来る方はこれに限らず。	入浴は、週3回を目標にし、身体状況に応じて、安全で、負担のないよう支援をしている。場合により、清拭、足浴など個々にあった対応をしている。入浴中は、過去の話題などを安心して話してもらえるよう、職員は良き理解者となって支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠、休息は一人ひとりの状況、状態に応じて又、室内の温度、湿度の調整を行い、気持ちよく、安眠、休息が出来るよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師の方から、薬の説明を受けると共に、説明書のも目を通し理解した上で、服薬の支援と状態の確認に努める。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族の方の話しや、職員との会話の中で、知ることにより、それに応じた支援が出来る。家族のない方は面会もなく、代表者の休みを利用し外食等に行くことで楽しんでもらう事もある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎年、公園の梅祭りの参加は施設の行事になっている。公園の散歩は日常的にしている。それ以外の外出の支援は利用者の方の身体的問題も有、無理な場合もあるが、出来る限り支援して行きたい。	ホームの前が梅林公園であり、ほぼ毎日、公園を散歩している。年間を通し、公園の祭りが開催され、利用者と共に参加し、楽しんでいる。希望者で街に出かけ、買い物を楽しんでいる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在の状況は、一人だけ所持されている。一人で外出されてしまうが、現在所持してもらい様子をみている。そのほかの人で隠した場所を忘れる、無くなったなど、状態が改善されず、買い物に行く時に限り所持可能。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	身体的に無理な方が多い。家族のある方は面会もあるため、特に行っていないが、今後の利用者の方に応じては、電話や手紙のやり取りに対して支援する用意はある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	場所に応じて季節の花を飾ったり、庭に野菜や花を植えたりして季節を感じ取れるよう配慮している。又心地よく過ごしてもらえるよう、室内の温度、清潔、光、臭気等には気をつけている。	和風の落ち着いた共用の部屋であり、窓越しに梅林公園を眺めることができ、季節を感じることができる。共用の間は、汚れや臭いがないように、常に清潔に保っている。利用者が落ち着けるように、掲示物の種類や配置を工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで過ごされる方がほとんどだが、居間にもテレビやソファーを置き、利用者の方は、自由に過ごされるよう配慮している、又毎朝の新聞や雑誌等を置くようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家族の方との相談のうえ、出来る限り新しいものではなく、これまで馴染まれ親しんだ物を持参してもらうようにして、今までの生活と大きな変化が無いよう配慮している。	居室は利用者の身体状態に合わせ、、使いやすいよう家具の配置を工夫している。ベツド、エアコンが用意され、使いなれた整理ダンス、写真、思い出の作品を置き、居心地良く過ごすことができるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お風呂場やトイレには、分かり易いように目印を付け、施設の廊下は一直線に為、職員の存在が利用者の方にわかりやすく、職員も利用者の方の行動が見ることができ安全、安心である。		